

II 宮城県亶理町との交流

東日本大震災時、市民(自治医科大学看護学部学生)が宮城県亶理町へ帰省中被災されたことを受け、亶理町を支援することが決まり、亶理町応援団(民間団体)を組織して復興支援が始まり平成24年度からは3年にわたり天平の花まつり招待事業など交流事業を行ってきました。

また、平成26年12月からは、スポーツ少年団がスポーツ活動を通じ友好関係を深めるとともに、青少年へ災害・防災への関心を高めることを目的として、宮城県亶理町と『スポーツ交流事業』(H26：サッカー、H27：ミニバスケットボール、H28：剣道)が実施されています。



ミニバスケットボール交流の様様



福島県からの避難者同志と地域との交流

田植えまつり

田植え交流

社会福祉法人はくつる会主催の「田植えまつり」に12名のふくしまあじさい会の会員が参加。腕に自信のある40名が水田に入り、従来の方法に変えて福島式前進法の植え方により、皆さん心地よい汗を流しました。※平成28年5月21日取材

福島県内の複数の自治体からの避難者で組織される「ふくしまあじさい会」は、毎月独自のイベントを開催するなど活発に活動しています。

当初は、グリーンタウンコミュニティセンターで活動を行っていました。その後、友愛館に活動の場を移すことで、東方台地コミュニティ推進協議会(らいささま第3号4ページ参照)と出会い、今の活動の基盤が形成されました。会報「絆 きずな ふるさとへ」(写真右)も毎月発行されており、取材時現在96号を数え、市安全安心課を経由して、各会員(44世帯)に郵送されています。組織の絆がしっかりしているので、ここまで続いており、なおかつ、参加した日に会費を払うと会員になれるなど参加しやすい雰囲気をつくっている印象をもちました。実際にイベント時は、宇都宮市・真岡市・壬生町・結城市からも参加者が集まり、毎回40~50名の方々が参加しています。



つながッテ
条例36条

(国内交流)

市は、歴史及び文化等を共有する他の市町村との交流を積極的に図り、歴史及び文化等を大切にするまちづくりを推進するものとする。

2 前項に規定する交流のほか、市は、災害等の緊急時に備え、他の市町村との相互支援を積極的に推進するものとする。